

## JOURNAL

春祭ジャーナル

東京・春・音楽祭 > 春祭ジャーナル > 作曲家の横顔 ～脇道コラム集～ > ヴウヴのヴェルディ 第4回 仮面の向こうの素顔

春祭ライブラリー

2022/12/13

### ヴウヴのヴェルディ

#### 第4回 仮面の向こうの素顔

文：飯尾洋一（音楽ジャーナリスト）



仮面舞踏会 Death of Gustavo, act 3, sc. 2, by August Pollak

ヴェルディの「仮面舞踏会」のクライマックスは第3幕第3場。リッカルドを暗殺するために、レナートらが華やかな仮面舞踏会の会場にやってくる。仮装していればこちらの正体はわからない。襲撃者たちは仕事

が容易になったと考える。だが、小姓オスカルはレナートの仮装を見破って、声をかけてくる。レナートは小姓のマスクを外して、相手がオスカルであることを確かめる。そして、リッカルドがどんな仮装をしているかを聞き出す。もし、オスカルがレナートの仮装を見破らなければ、レナートだって誰が誰やら分からないまま、暗殺に失敗したかもしれないのに……。レナートはリッカルドを見つけ、そっと近寄って刺す。たちまち騒ぎになり、犯人のマスクが剥がされる。なんと、レナートがやったなんて！

人々が仮面舞踏会で身につけるマスクは、おおむね目の周りを覆うタイプようだ。オペラである以上、口まで覆うようなフルフェイスのマスクは用いづらい。

そこではたと気づくのは、私たちが日々マスクを着用して人々と接しているということだ。「仮面舞踏会」のマスクは目の周囲を覆っていたが、現代のマスクは口元を覆っている。不織布のマスカレードはすでに3年目を迎えており、この間、何人もの初対面の人と名刺交換をしてきたが、知っているのはマスクを付けた顔のみ。素顔を見ても、はたして正しく相手を認識できるものか、いまひとつ自信がない。

パンデミックが過ぎ去った後、皆がマスクを外して集まったとき、だれがだれなのかよくわからない「逆仮面舞踏会」が自然発生する……か



エドゥアール・マネ《オペラ座の仮面舞踏会》1873年 油彩/カンヴァス ワシントン・ナショナル・ギャラリー

も!?

#### 関連公演

▶ イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.3 リッカルド・ムーティによる《仮面舞踏会》作品解説

▶ イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.3 リッカルド・ムーティ指揮《仮面舞踏会》（演奏会形式/字幕付）

▶ イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.3 リッカルド・ムーティ introduces 若い音楽家による《仮面舞踏会》（抜粋/演奏会形式/字幕付）

SPRING  
FESTIVAL  
IN TOKYO  
東京・春・音楽祭

プライバシーポリシー